

# 奈良県大和高田市方言の素材待遇語 (ヤ) イスの形態と運用法に関する記述的研究

文学部 総合人文学科

国語国文学専修(国語学コース)

文20-0550 日山和也

## 【論文構成】

1. はじめに
2. 先行研究と問題のありか
3. 調査概要
4. 形態的特徴の記述
5. 運用面の記述
6. まとめと考察
7. おわりに

## 【もくじ】

1. 素材待遇表現とは？
2. 問題点
3. (ヤ)イスの活用
4. (ヤ)イスの特徴分析
5. (ヤ)イスの否定表現
6. 取り残された「シ」
7. まとめ

# 1. 素材待遇表現とは？

= 話題の人物(素材) に対しての配慮を表す表現

対者待遇

A

B

Bさんは転勤しはるんですか？  
→ 目上待遇  
Bは転勤しよるん？  
→ 目下待遇

第三者待遇

A

B

C

Bさん転勤しはるねん。  
→ 目上待遇  
Bは転勤しよるねん。  
→ 目下待遇

使用場面が第三者待遇に偏る = 第三者待遇偏用

(ヤ) イス・・・対者× ← 第三者待遇偏用○

# 2. 問題点

## 先行研究において

- 奈良盆地中西部地域で使用。
- 対等な人物に対して使う。 参考:西宮(1959)中井(1989)(1997)(2002)(2012)



詳しい記述×

- 動詞の活用の種類に応じた網羅的記述
- (ヤ)イスの語形変化

網羅的記述&考察をしよう

80代女性2人への聞き取り調査

調査を行うと…

**(ヤ) イスの活用には穴抜けが多い**

ことが判明

さらに

否定表現から意外な事実

# 3. (ヤ) イスの活用

		標準語	大和高田市方言		
		五段動詞 出す	五段動詞 書く	一段動詞 見る	(ヤ)イス 実際の形
終止類	断定非過去	ダス	カク	ミル	(ヤ)イス
	断定過去	ダシタ	カイタ	ミタ	(ヤ)イタ
	命令	ダセ	カケ カキヤ	ミー ミーヨ	×
	禁止	ダスナ	カキナヤ	ミナヤ	×
	意志	ダソー	カコー	ミヨー	×
	推量	ダスダロー	カクヤロ	ミルヤロ	(ヤ)イスヤロ
接続類	連体非過去	ダス	カク	ミル	(ヤ)イス
	連体過去	ダシタ	カイタ	ミタ	(ヤ)イタ
	中止	ダシテ	カイテ	ミテ	(ヤ)イテ
	仮定	ダセバ	カイタラ	ミタラ	(ヤ)イタラ

(ヤ)イシタでも(ヤ)イセタでもない？

# 4. (ヤ) イスの特徴分析

活用の種類	出現形
五段動詞	カカイス(書く)
上一段動詞	ミヤイス(見る)
下一段動詞	ネヤイス(寝る)
カ変動詞	キャイス(来る)
サ変動詞	シャイス(する)

花子は筆で手紙をカカイスデ。

太郎はテレビばかりミヤイスワ。

太郎もうすぐネヤイスワ。

太郎、もうすぐキャイスデ。

太郎勉強シャイスネントー。

花子が**キャイタラ**、ご飯たべよか。

仮定表現→接続助詞タラ接続

×本来の仮定形

近畿方言で多用されるタラ

\*はよ、**キャイセ**。

\*そろそろご飯**タベヤイショウ**。

\*こんなところ**アルカイスナ**。

命令・意志・禁止形がない

(ヤ)イスは

第三者待遇しか使われないから？

# 5. (ヤ) イスの否定表現

		標準語	大和高田市方言		
		五段動詞 出す	五段動詞 書く	一段動詞 見る	(ヤ)イス 実際の形
終止類	断定非過去	ダサナイ	カカン カカイン	ミン ミヤン ミヤイン	(ヤ)イシャイン
	断定過去	ダサナカッタ	イカインダ	ミヤインダ	(ヤ)イシャインダ
	命令	×	×	×	×
	禁止	×	×	×	×
	意志	×	×	×	×
	推量	ダサナイダロー	カカンヤロ カカインヤロ	ミンヤロ ミヤンヤロ ミヤインヤロ	(ヤ)イシャインヤロ
接続類	連体非過去	ダサナイ	カカン カカイン	ミン ミヤン ミヤイン	(ヤ)イシャイン
	連体過去	ダサナカッタ	カカインダ	ミヤインダ	(ヤ)イシャインダ
	中止	ダサナクテ ダサナイデ	カカインデ	ミヤインデ	(ヤ)イシャインデ
	仮定	ダサナケレバ	カカインダラ	ミヤインダラ	(ヤ)イシャインダラ

# 6. 取り残された「シ」?

- 否定辞「イン」

「イン」はもともと「**~ワセン**」(大阪のヘンと同じ)  
「~ワセン」に接続する動詞は**連用形**  
**(ヤ) イスにはインだけ接続可能**

## 考察

(ヤ) イスの否定表現 (ヤ) イ**シ**インの「**シ**」

=ヤイ**シ**ワセンの**シ**では?

過去形・中止形

→もともと **(ヤ) イシタ**・**(ヤ) イシテ**

# 7. まとめ

- (ヤ)イスは第三者待遇のみ使用

→ 禁止形、命令形、意志形×

- 仮定形がタラで代替

→ 本来の仮定形×

- 否定表現が～インで代替

→ 未然形を使った否定表現×

活用の支えがない

音韻的にも変化が起きやすくなる

(ヤ)イシタ・(ヤ)イシテ → (ヤ)イタ・(ヤ)イテに

結果、活用体系と語形変化の単純化が起こった。

参考文献

辻加代子(2001)「京都市方言・女性話者の「ハル敬語」—自然談話資料を用いた事例研究—」『日本語科学』10, 国立国語研究所/中井精一(1989)「奈良盆地中・南部における待遇表現形式の分布について」『地域言語』1, 天理・地域言語研究会/中井精一(1997)「奈良県天理市長柄方言の待遇表現」『方言資料叢刊』7, 方言研究ゼミナール/中井精一(2002)「西日本言語域における畿内型待遇表現法の特質」『社会言語科学』5, 社会言語科学会/中井精一(2012)『都市言語の形成と地域特性』和泉書院/西宮一民(1959)「奈良県方言の待遇表現について」『国語学』36, 日本語学会/方言文法研究会編(2017)『全国方言文法辞典資料集(3)活用体系(2)』方言文法研究会/宮治弘明(1987)「近畿方言における待遇表現運用上の一特質」『国語学』151, 国語学会